

広 報



MISHIMA

k e n s y o u k a i

三島博士顕彰会

第49号
【令和4年5月】



磁石から学ぶ科学のおもしろさに夢中
広石小学校4年生が顕彰室を見学（令和3年11月22日）

● 発 行 者 ●

兵庫県洲本市五色町広石中90-5
「三島博士顕彰会」
TEL0799-35-1166 FAX0799-35-1167

地域との連携をめざして

洲本市立五色中学校長 毛 笠 吉 紹



五色中学校に勤務させていただくのは2回目です。1回目は平成22年から4年間お世話になりました。五色中学校は、私にとっては母校でもあり、洲本市で初めて勤務した学校でしたので、懐かしく、思い出深い学校です。令和3年4月、再び勤務できることになり、本当にうれしく思っています。三島博士顕彰会の皆様には、物心両面からご支援・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

私が、郷土の偉人「三島徳七博士」を知ったのは、中学校入学時でした。理科の最初の宿題で「三島徳七」について調べてくるように言われました。最初、「それ誰？」の世界であり、早速家に帰り、百科事典なるものを開いたことを覚えていています。「津名郡広石村下組（現在の洲本市五色町広石下）出身」「MK磁石鋼」「三島家・喜住家」「十大発明家」…調べていくうちに、郷土の偉人であることに気づく。何とも恥ずかしく、また、失礼な話でありましたこと、この場をお借りしてお詫びいたします。

さて、現在の五色中学校ですが、この5年間で生徒数は107名、学級数は3減少し、現在の生徒数は208名、この先200名前後で微増減を繰り返す見込みです。校訓「進んで・仲間と・精一杯」のもと、幼少から苦学して様々な苦難を乗り越え、真理を探究する三島徳七博士の精神に学び、日々努力をし続けることの大切さを実感しながら、勉強に部活動に励んでおります。以下に、その一端を紹介させていただきます。

主な学校行事としては、1学期は1年「校外学習」、2年「トライやる・ウィーク」、3年「修学旅行」、2学期は「体育大会」、「文化祭」、3学期は「書き初め大会」、「カルタ大会」などがあり、どの行事も生徒を中心として、教職員も共に汗を流しています。PTA活動も盛んで、学期毎のPTA新聞の発行、体育大会でのPTA種目の立案と参加、各種研修会への参加、地域の祭りなどにおける生徒の安全確保、親子での通学路や海岸の清掃活動など、多岐にわたり活動しています。しかし、令和3年度も「新型コロナウイルス」感染防

三島徳七物語より抜粋

文化勲章をはじめ多くの表彰を受ける

三島博士は、MK磁石の発明をはじめとした多くの研究や、その後の学会活動、産業界への貢献に対して、各界より様々な表彰や勲章授与があった。国内にとどまらず海外からも多くの表彰があった。主だった賞について紹介しよう。

昭和七年(1932)十月、東洋の時計王と呼ばれた服部金太郎氏が制定したもので、毎年学術研究・発明発見の最も優秀な者に授与する賞である。その第二回目に三島博士が受賞した。支援者の野木仁平氏に送った手紙ではその喜びとともに、今後も無欲に徹し物質的利益よりも学術研究を優先し、研究に没頭する決心を伝えている。三十九歳の若き研究者にとって実に晴れがましい名誉なことだった。

昭和二十五年(1950)十月には藍綬褒章、十一月には、文化勲章を受章している。両章は、長年に渡る磁石研究が認められたことによるものであったが、五十七歳の現役の東大教授の文化勲章受章は初めてであった。この年の文化勲章には、土井晩翠、牧野栄一、正宗白鳥、小林古径、藤井健次郎氏ら各界の長老・大先輩が選ばれ、そんな歴々たる方々とともに文化勲章の授与を受け、皇居前で記念撮影をしている。兵庫県出身者としても初めての受章で、翌年受賞した福崎町出身の有名な民俗学者柳田国男氏に先立つものであった。

三島博士は、昭和三十二年(1957)、世界の金属学会の最高の賞といわれたアルバート・ソーバー賞を受賞した。ソーバー賞というのは、世界的な金属学者で著名な



皇居前で勲一等瑞宝章受章記念撮影(博士夫妻は中央)

アメリカのアルバート・ソーバー教授にちなみ、一九三四年に創設された賞である。世界的な発明でそれを追い越す発明や改良が永らくないものを対象としており、昭和五年の発見以降二十七年間最強の磁石を維持してきたことが、受賞の大きな理由であった。受賞式の前のカクテルパーティーに出席している丁度その時、アイゼンハワーアメリカ大統領が全米向けのラジオ放送で「今まで科学面でアメリカに貢献したのは、イギリスはジェット・エンジンとレーダー、赤外線、ドイツはロケットとエックス線、ズルファ系薬品、イタリアは無線電、フランスは放射能、日本はマグネットである」と述べた。その瞬間周囲の人たちは一斉に博士の

三島博士顕彰室 見学記

見学に来た児童たち



堺小学校5年生



由良小学校5年生



広石小学校4年生

令和3年11月18日(木)堺小学校の5年生11名、同11月22日(月)広石小学校4年生15名、令和4年1月18日(火)由良小学校5年生15名が三島博士顕彰室の見学に来ました。

最初に徳七博士の幼少期からMK磁石の発明に至るまでの軌跡を描いたDVDを見た後リニールした顕彰室で展示物やパネルを見ながら、幼少期から苦学しながら東京帝国大学に入り、鉄の研究をしてMK磁石を発明したことや、それを支援した郷土の人達についての説明を聞き、博士の発明した磁石が現代社会の多くの機器に活かされていることを学びました。

堺小学校



資料に基づいて三島博士を学ぶ

広石小学校



博士の功績を描いたDVDを鑑賞

由良小学校



現代社会の多くの機器に欠かせないマグネット



磁石のはたらきを学んだよ!

リニアモーターのしくみを学ぶ



写真を撮ってまとめに活用!

タブレットを活用して学習



三島博士の功績を学ぶ



アルバート・ソーバー賞の盾

昭和三十七年(1962)九月には、イタリア金属学会からルイジ・ロサーナ賞が贈られた。ナポリで開かれたイタリア金属学会総会で表彰され、特別講演で「最近における日本の永久磁石の研究並びに工業化について」を英語で講演したが、若いイタリアの学者や技術者が一言ももらすまいと熱心にメモをしていたのが印象的だったという。



アルバート・ソーバー賞受賞式

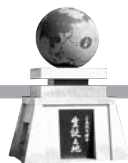
三島徳七が綴った言葉、語った言葉

「暢童心」(ちようどうしん)
 広石小学校の新築落成式で求められ、この言葉を揮毫した。子供の心をのぼし、夢をかなえるには、たゆまぬ努力が必要である。教育者をはじめとして子供たちの成長に係わる者は、子供の興味や探究心を大切にし、子供の個性や長所をおおきく膨らませていけるよう、様々な知識や機会の提供・支援を行っていくことが重要であると。子供の頃に徳七博士自身が体験から受けとった熱い想いで、揮毫したものと思われる。

「学然後知不足」(学んで然る後、足らざるを知る)
 中国の古典「礼記(へらいき)」の中にある言葉で、様々なことを学ぶことによって、はじめて自分の知識や経験がいかに足りないかを知るという意味である。



様々なことに常に学ぶことを究めた徳七博士がたどり着いた境地と思われる。三島博士顕彰室の正面には、この言葉を博士に自筆で揮毫いただいた額を掲げている。



令和4年度の取り組みについて

今年度も新型コロナウイルス感染状況を見ながら、リニューアルした顕彰室や、昨年発行した普及版「三島徳七物語」等を活用して青少年に健全な夢を与え、三島精神を次の世代に引き継いでいけるよう事業に取り組みでいきたいと考えております。

◎主要事業の計画は次のとおりです。

1、こどもの集い体験学習、
科学のふしぎ三島教室の開催
体験と経験を重視し、健全な青少年の育成に寄与するよう教育関係者と連携し、協議しながら実施する。

2、視察・見学会の開催

会員を対象に近隣での先進的な施設、場所を選定し、訪問を通じて様々な情報の提供と会員相互の親睦をはかる。

3、講演会の開催

活力ある地域づくりのための情報を提供する場として、必要に応じ開催する。

4、広報「MISHIMA」等の発行による情報発信

各種活動状況を報告し、本会に理解を得るため年2回発行するとともに、ホームページも随時更新して幅広く情報発信を行う。

5、広範な顕彰活動の実施

「暢童心・三島徳七物語」について、希望する人に対して広く配布する。

さらに、見学希望の市内の小・中・高校生の顕彰室見学受け入れを積極的に行う。

6、三島徳七博士記念「磁石を使ったおもしろ工作」の募集

新規事業として、島内小中学生に工作の募集を行い、審査表彰を行う。

7、調査・研究の実施

顕彰室の展示内容の見直し充実及び活動実施上必要な事について調査研究を行う。

令和3年度収支決算及び 令和4年度収支予定

◎収入の部 (単位：千円)			
項目	3年度決算	4年度計画	摘要
繰越金	48	164	
会費	446	446	個人・法人会費
助成金	280	280	洲本市
その他収入	0	140	事業参加者負担金
計	774	1,030	

◎支出の部 (単位：千円)			
項目	3年度決算	4年度計画	摘要
事業費	486	860	広報・ホームページ管理・体験学習・見学会・磁石工作他
会議費	31	5	総会・役員会
事務費	9	15	事務用消耗品
通信費	48	40	郵便払込手数料
役員活動費	0	95	交通費等活動費
諸雑費	36	12	淡路の偉人顕彰会費他
予備費	0	3	
次年度繰越金	164	—	
計	774	1,030	

第26回定例総会のお知らせ

例年地域福祉センターみやまホールで開催しております定例総会ですが、新型コロナウイルスの感染拡散の現状により、今年も会員の皆様方には書面による総会を実施し、ハガキにて過半数の承認を頂きました。第26回定例総会は成立したことをご報告いたします。

訃報

三島博士顕彰会の設立にご尽力をいただき初代会長を務められました齋藤貢氏が令和3年12月27日に逝去されました。ご冥福をお祈りします。

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大も3年目を迎えました。昨年は感染が少し収まった夏場を中心に、こどもの集いや顕彰室リニューアルのお披露目はできましたが、書面による総会実施等、コロナと共存しながらの活動が必要な1年となりました。
(T・K)

新会員募集!!

三島博士顕彰会では、郷土が生んだ偉人、三島徳七博士親子二代を顕彰し、併せて、健全な青少年の育成に寄与することを目的に設立され、会員からの会費により事業を運営しています。皆様方のご支援、ご協力をお願いします。

【会費】●個人 年額(1口)/2,000円 ●法人 年額(1口)/10,000円

連絡・問い合わせ先

会長/小林 ☎(0799)35-0663 事務局長/片山 ☎(0799)35-0467